

## 葎野の棚田

～先人の情熱と結束力がつくりだした景観～

相知八幡岳の北麓に、日本一の高さの棚田（段高が3～5メートルが多いものの、昭和元年～同110年にかけて造成された日本一の高さの棚田は8.5メートル）があり、その高さや堅牢な石積み景観は、城壁にたとえられるほど壮麗である。

特に歴史的に目を引くのは、谷部分の棚田には大小200ヶ所を超える横穴水路（暗渠）が見られることである。その部分は我々が入ることができるほどの規模で、棚田の造成時に広い面積を得るために谷の最低所部を暗渠にして排水し、灌漑水として地下水（湧き水）を集め、用水とするなど先人の知恵は目を見張るものがあり、こけむした地下道に足を踏み入ると、当時の先人達の血のにじむ労働の熱気を感じることができる。

立地が急斜面であると共に、集落部分からやや離れており、農機具をはじめ道具運搬も困難であったことから、曲がりくねった農道には、農具や肥料を保管し、時には休憩場となる作業小屋が点在し、棚田の風景に色づけをしており、景観のアクセントともなっている。

葎野地区に残る昭和18年の「石盛普請帳」から当時の造成状況を知ることができますが、それによりますと、石積み棚田は「石垣棟梁」と呼ばれる石工と作業に携わった村人による共同作業で行われ（手間講）、明治から昭和初期に造成されたそうである。

主に農閑期に行われたそうですが、裏組、中組などの各組十数人が集まって、石積み、盛り土による床土づくりなどが行われ、年末年始と紙漉き作業時以外は、ほとんど毎日造成に当てられたという血のにじむ歴史が記されている。

平成20年7月28日全国初「棚田の重要文化的景観」選定

### ◎エピソード・伝承・うんちく など

五つの谷間にまたがるために、尾根を越えての営農で他の棚田と比べても特別困難な労働を要していますが、それでも今日まで良好な状態で景観が残されてきた要因は、棚田米の生産条件を改善する水利施設や農道の整備、そして畦畔コンクリートなどの基盤整備と手間講に代表される住民協働の伝統があるためではないでしょうか。

2003年から葎野棚田保存会では米の作付け品種を「夢しずく」に限定し、JAや農業改良センターと連携し販路開拓や生産に関する協議を繰り返してきた。

都市部との交流も進みイベントも多く行われ参加者も年々増え、町おこしに一役かっている。

平成13年から

- ・6月中旬 棚田ウォーク in 相知
  - ・6月下旬 親子棚田農業ふれあい体験交流会
- など盛んに行われている。

分野 自然

地域 相知

◎地図・写真・統計資料など



相知町南端で八幡岳の北麓に位置している。



葎野棚田の暗渠

すぐに水を引き込むと冷たい為、田の周りを一周してから田へ水を引き込む工夫がなされている

（佐賀大学客員研究員 田中明氏より）

◎引用・参考文献（出典）

◆相知町作成「葎野の棚田」/  
（相知支所 産業課）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)